

## 坂本新理事長あいさつ



本年六月一日付で理事長を拝命しました坂本でございます。会員をはじめご関係の皆様のご支援、ご協力をいただきながら本会の事業が適切に実施されるよう努力したいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

着任後、いくつかの県の水難救済会の行事などに出席し、また、救助活動の実情を拝見する機会がありました。その都度、いずれの会におきましても、海難救助活動の重要性を認識され、救助体制の強化を進められ、また、救助活動・訓練などに真剣に取り組んでおられることを知ることができました。関係する皆様のご熱意とご努力に心から敬意を表する次第です。

このような各地の状況を見ますと、各地のボランティア救済員によります救助活動などが、よりの確に行われるように海難救助出動報奨や救助訓練あるいは救助資器材等に関する事業の的確な運営を図るとともに、名誉総裁と会長表彰につきまして十分に注意を払い、関係する皆様の士気の向上を図ることなどに努めなければならないと改めて考えさせられているところでもあります。

我が国沿岸海域におきましては、今なお多くの海難や人身事故が発生しています。沿岸海域におきます官民の救助体制を考えると本会の役割は今後ますます大きくなっていくものと思

います。

このため、事業の実施体制の一層の充実を目指して、日本財団、日本海事財団、大日本水産会など多くの団体のご理解を得て、ご支援をいただくとともに、海難救助体制の整備などを目的に活動資金を募っている青い羽根募金活動の活発化を図ることが重要であると考えています。

また、後継者の育成などを目的に各地で開催されています若者の海難救助ボランティア教室は、大変意義のある事業だと考えており、今後も、関係する皆様のご理解とご協力を得て、適切な事業の運営を心がけてまいりたいと考えています。

一方、船員の福祉の向上などを目的とする洋上救急事業は、本年で二十一周年を迎えることとなります。ご関係の皆様のご支援、ご協力に感謝いたしますとともに、洋上救急の現場で活動された医師、看護師などの皆様に心から敬意を表する次第です。本事業では、今年初めて名誉総裁表彰が日本医科大学付属病院に授与されたことを思いますと、関係者の皆様の感謝の気持ちと期待の大きさの現れであり、このような期待にこたえて事業を推進していくためには、これからも関係の皆様のご支援、ご協力をお願い致したく思っています。

終わりに、各地の水難救済会のご発展と海難や洋上救急の現場で活動されます救助員、医師、看護師をはじめとする関係者の皆様の無事故での活動を心からお祈りします。